

〈紹介〉

## NRPAとそのコンGRESSについて

廣田 治久\* 浅宮 佐知子\* 橋本 和秀\*  
栗原 邦秋\* 山崎 律子\* 高橋 和敏\*

### Report on NRPA and its Congress

Haruhisa HIROTA, Sachiko ASAMIYA, Kazuhide HASHIMOTO  
Kuniaki KURIHARA, Ritsuko YAMAZAKI and Kazutoshi TAKAHASHI

#### はじめに

1948年、「財団法人日本レクリエーション協会」の設立から、既に50年を経過した。換言するならば、第二次世界大戦後におけるわが国のレクリエーション運動も、50年の歴史を有するに至ったといえよう。しかしながら、レクリエーション運動に対して、社会および一般の人々が、必ずしもその重要性について、高い認知度があるとはいえないのが現状である。

やがて21世紀を迎えようとしている今日、わが国においては、従来までの経済至上主義からの脱皮や、それに伴う産業構造の変革、行政機構改革など、幾多の重要課題を抱えている。それらの目指すところは、人々の真の豊かさやゆとりある人間生活の実現にあると期待されている。したがって、レクリエーション運動の使命は、今後ますます重要となり、その運動の在り方が、従来にもまして、真剣に問われなければならない時期にあるものと考えられる。

現在、わが国において、レクリエーションに関わる民間団体は数多いが、直接レクリエーション運動を標榜している団体は、特定公益法人としての上記「財団法人日本レクリエーション協会」と、都道府県や市町村の地域協会である。それと共に、日本レクリエーション協会加盟の領域・種目別団体が、それぞれの分野から普及運動を展開している。最近では、1997年6月に、財団法人日本レクリエーション協会は、21世紀に向けてレクリエーション運動の新たなスタートを切るべく「緊急総合5カ年計画」を発表し、その運動のビジョ

ンを策定するに至った。

日本レジャー・レクリエーション学会—以下本学会と略す—設立以来“レクリエーション運動”に間接的に関わる研究発表は、数多くみられる。しかし、“レクリエーション運動”そのものに関わる研究発表は、総論的に論議した発表<sup>1) 20)</sup>や、歴史的に取り上げた発表<sup>17) 18) 21)</sup>、地域協会におけるレクリエーション運動に関する発表<sup>3) 8) 9) 10)</sup>などに止まっている。

本学会の使命のひとつは、研究を通してレジャー・レクリエーションの発展を目指すことにあるものと考えられる。したがって、必然的にレクリエーション運動とも密接な関わりがあり、研究に裏付けられた運動の方向性を、より多く提言する必要があると思われる。

以上の問題意識から、まず本報告は、とくに戦後の日本におけるレクリエーション運動に多大な影響を及ぼしてきたアメリカ合衆国のレクリエーション運動に着目した。

次に、現在アメリカ合衆国におけるレクリエーション運動推進の中心民間団体「全米レクリエーション・公園協会 (National Recreation and Park Association)」—以下NRPAと略す—の概略を把握し、さらに年一回のコンGRESS参加・視察によって得た知見を開陳することを試みた。以上をもって、今後の日本におけるレクリエーション運動の在り方および全国レクリエーション大会の在り方への示唆を得ることを期待したい。

NRPAについては、既に多くの文献によって紹介

\* 余暇問題研究所 Japan Institute of Leisure Services and Education

されているため、とくにNRPA設立の沿革とその背景、および現在の活動状況に焦点を当てることとした。またNRPAのコンGRESについて、毎年日本から数名の参加者があり、とくに1988年以降は、「月刊レクリエーション」<sup>2) 3) 6) 16)</sup>や「余暇生活開発・レクリエーション総合研究所」のニュースレター(注1)に、各年のコンGRES参加報告がなされていることもあって、本報告は筆者らが参加したコンGRES(注2)と毎年のそれに共通する特徴を中心に考察することとしたい。

## 1. NRPAの沿革

NRPA設立当時の様子については、既に江橋が、本学会の前身であった「レクリエーション研究会」の定例研究会で発表している。<sup>1)</sup>

NRPAは、もともと単一団体として設立されたのではない。従来から活動していた民間団体の統合・合併によって生まれたものである。したがって、ここでは統合前の各団体の概要について触れることにする。

すなわち、NRPAは以下のレクリエーションや公園関係5団体の統合・合併によって、1965年8月13日に設立された。初代会長はLaurance S. Rockefeller氏であった。

1)「American Institute of Park Executive (AIPE)－アメリカ公園管理者協会－」は、The New England Association of Park Superintendentsとして1898年に設立された。周知のように、アメリカ合衆国における1800年代後半は、都市公園設立運動が盛んであった。ボストンを初めとして、多くの都市に公園が設立され、それに伴って専門の都市公園管理者も増加した。この協会は、いわば都市公園専門職の知識や情報交換の集団として、アメリカ都市公園運動を促進してきた。1965年の合併時には、約3,000名の都市公園やレクリエーション管理者の会員を擁していた。<sup>19)</sup>

2)「National Recreation Association (NRA)－全米レクリエーション協会－」は、1906年「Playground Association of America」の名称で設立された。その後、「Playground and Recreation Association of America」と改称し、1926年にNRAとなった。主としてアメリカ合衆国の公共レクリエーションの発展に貢献した団体であり、設立初期には、Joseph Lee, Jane Addams, Luther H. Gulickなどが、理事として名を連ねている。1965年までには、18,000名

の会員を擁し、月刊機関誌「Recreation」を発刊していた。また、本部はニューヨーク市にあり、ほかにワシントン D.C. と全米に8カ所の地方事務所を開設していた。

3)「American Recreation Society (ARS)－アメリカ・レクリエーション協会－」は「Society of Recreation Workers of America」の名称で、1937年に設立された。アメリカ合衆国におけるレクリエーション実践指導者の専門家集団としての地位を高めてきた団体といえよう。統合時には、約4,200名のレクリエーション専門指導者が会員になっていた。各分野ごとのセクションがあった。すなわち軍隊レクリエーション、病院(セラピューティック)レクリエーション、公共レクリエーション、専門教育、民間レクリエーション団体、宗教団体などであった。

4)「National Conference on State Parks (NCSP)－全米州立公園協会－」は、主に自然保護関係に携わる人々によって、1921年に設立された。その当初の目的は、重要な景観地の保護とその獲得であった。したがって会員の多くは、自然資源保護関係の専門家や州立公園関係者であった。

5)「American Association of Zoological Parks and Aquariums (AAZPA)－アメリカ動物公園・水族館協会」は、1924年に設立された。これは第一次世界大戦後における公園運動をはじめ、野外レクリエーション振興など連邦政府の政策の一環として設立されたと考えられる。

## 2. NRPA設立の背景と経緯

これらそれぞれの歴史を有する5団体の統合・合併については、その時代の社会的背景と、統合に至るまでの努力があった。

合併以前は、アメリカ合衆国においても、元来公園とレクリエーションは、互いに関係のある分野ではあるが、別目的の団体と認められていた。NRAとARSは、レクリエーション分野における全国的組織として発展してきた。そしてまた、AIPEとNCSPは、公園運動の全国的組織となっていた。

NRAとARSは、設立当時から、社会サービスを目的としたレクリエーション専門職集団であり、かたやAIPEとNCSPは自然資源保護を目的とした、公園管理者の集団であった。おのずから、その考え方に大きなギャップがあったといえよう。

NRAとARSは、1960年頃から相互の協力関係についての動きがみられた。それは両者が同じレクリエーションを通しての社会サービス団体であり、NRAは主に公共レクリエーションとして地域行政に関わり、その社会システムにおける位置付けが明確であった。それに対してARSはレクリエーション専門職として、あらゆる分野にサービスを提供する全国的ネットワークとしての機能を有していた。必然的にこれら両者には、とくに地域のニーズに対しては、オーバーラップする側面もあり、また協力関係を確立することによって、活動がより効果的になるという見通しがあったといえよう。

その契機となったのは、1961年NRA主催の全米レクリエーション・kongressの昼食会に、ARSの会長を招待したことに始まる。その後1962年1月24日に両協会の合同理事会の開催があり、積極的な協力関係や合併問題が取り上げられてきた。その手始めとして、合併についての会員調査が実施された。その結果は、66%の両協会会員が合併に賛成したという。<sup>11)</sup>このようにして、NRAとARSの合併への機運ができた。

さらに統合に拍車をかけたのは、1950年から60年代にかけての、野外レクリエーションに対する関心の高まりであった。ソフトとしてのレクリエーション運動とハードとしての公園運動が融合することによって、新しい形の効果が生じ得るとの期待があった。

既に地方レベルでは、レクリエーションと公園管理の一体化の要求もあり、全国的には、NRAとARSは公園問題に関心を示し、またAISPにおいてもレクリエーションに対する理解の深まりをみせ始めていた。

アメリカ合衆国議会においても、1958年6月に国家的見地からの政策を立てるため、議会決議によって、総合的な研究調査を実施するための「野外レクリエーション資源調査委員会 - Outdoor Recreation Resources Review Commission - (ORRRC)」が設けられ、1962年には、その報告書が提出された。その結果、内務省に野外レクリエーション局が設立されたほか、レクリエーションのための土地の確保や資金援助などに関する立法化がみられるなど、連邦政府も、本腰を上げるようになった。

しかし、統合・合併するには、会員層の相違、税金の問題など幾多の障壁があったものの、それらを乗り越えて合併に至った。初代会長に推されたLaurance S. Rockfeller氏は、会長就任の挨拶で、次の言葉を

残している。<sup>7) 12)</sup>

We have entered a new era in this country... an era where parks, recreation and the quality of the environment have become a major item of public concern. With these developments come heavy responsibilities. So it is timely, fitting and important that we strengthen our ties of organization and mutual cooperation. Our combined strength will be far greater than the sum of the individual components. The stakes are great for our organizations, for our professions and for the public good.

### 3. 現在のNRPAブランチ

現在(1997年)のNRPAは、次に挙げる11のブランチおよびセクションで構成されている。これらのブランチやセクションは、それぞれが独自の活動を展開しながら、NRPA全体の事業と有機的にシンクロナイズし、公園・レクリエーション分野の発展に貢献している。

#### 1) American Parks and Recreation Society (APRS)

アメリカ・公園・レクリエーション協会ブランチは、元のARSの流れを組むブランチといえよう。一般社会に公園・レクリエーションの価値を認識させる働きかけや、レクリエーション指導者の専門職としての地位向上に必要な研究活動などを行っている。

#### 2) Armed Forces Recreation Society (AFRS)

軍隊レクリエーション協会ブランチは、陸軍・海軍・空軍・海兵隊およびその家族、退役軍人のレクリエーション活動の振興を図っている。メンバーは、各基地・施設などのレクリエーション・ディレクターで構成される専門職である。

#### 3) National Aquatic Section (NAS)

全米水辺活動セクションは、公園・レクリエーション局(部)に所属する水泳プール運営管理者から経営者などの水辺専門職の集団である。また、ポート関係の安全対策を推進している。

#### 4) Leisure and Aging Section (LAS)

レジャーと高齢者セクションは、シニア・センター、リタイヤー・コミュニティ、レクリエーション・センターなど、高齢者施設における専門レクリエーション担当職員によって構成されている。その使命は、健康

で活動的な高齢者を、レクリエーション参加を通して支援し、高齢者のレジャー・レクリエーションの機会とリーダーシップを発揮することにある。

5) Citizen-Board Member (C-BM)

市民委員会メンバー・セクションは、公園・レクリエーションに関して、各地方自治体の定めた政策によって選出された委員によるセクションで、そのメンバーは公園・レクリエーション運動を、積極的にサポートする一般市民である。ボランティアのトレーニングやそのネットワークづくり、表彰などを行っている。

6) Friends of NRPA

NRPAの友の会は、「公園・レクリエーションの友」という、一般市民やボランティアのための啓蒙誌を、年4回出版して、一般人の公園・レクリエーション運動の普及を図っている。その財源は「National Recreation Foundation—全米レクリエーション基金—」からの援助である。

7) National Therapeutic Recreation Society (NTRS)

全米セラピューティック・レクリエーション協会ブランチは、地域、施設を拠点とするセラピューティック・レクリエーション関係機関や専門家の団体である。また、出版物の発行を行い、専門家養成講座は、NRPAコンgres時開催されている。専門誌として、「Therapeutic Recreation Journal」を発行している。

8) Society of Park and Recreation Eduators (SPRE)

公園・レクリエーション教育者協会ブランチは、公園・レクリエーション教育に関わる大学専門家の集団であり、NRPAコンgres時に、レジャー研究シンポジウムを主催する。また研究誌「Journal of Leisure Research」(年4回)や「SCHOLE」(年1回)を発行する。

9) Student Branch (SB)

学生ブランチは、公園・レクリエーション関係の専門教育をもつ大学の専攻学生がメンバーとなっており、インターン先専門機関の紹介、就職情報の提供などの支援を行っている。

10) Commercial Recreation and Turism Section (CRTS)

コマーシャル・レクリエーション・ツーリズム・セクションは、コマーシャル・レクリエーション関係企

業に従事する経営者・専門職の技能向上を目的とする団体で、とくに公共とコマーシャル・レクリエーションの関係を効率的に改善することを強調している。

11) National Society of Parks Resources (NSPR)

全米公園資源協会ブランチは、NRPAが統合される前の「全米州立公園協会」の流れを組む団体で、公園・森林・自然資源に関わる専門家組織である。

#### 4. NRPAの主な事業と財政

NRPAは、言うまでもなく非営利団体であり、アメリカ合衆国における公園・レクリエーション運動の推進によって、社会・文化・健康・経済などの各方面において、アメリカ市民に貢献することをアピールしている。

1994年には「Vision 2000 - A Strategic Plan for the Future」を発表し、2000年に向けてのビジョンを明らかにした。その中に、NRPAの使命として、次の条文を挙げた。<sup>14)</sup>

“ To advance parks, recreation and environmental conservation efforts that enhance the quality of life for all people ”

この使命を達成するために、主に次に挙げる事業を展開している。

1) 社会問題への啓蒙・対応事業

国家政策、地方政策、環境保全問題、高齢者問題、非行問題、障害者問題、人種問題、フィットネス・ウェルネス問題など、様々な社会問題解決に対して、公園・レクリエーションがいかに必要であるかを、連邦議会をはじめ地方議会に働きかけ、補助金の獲得などを通して、世の中にアピールしている。

2) 一般市民への啓発活動

各種メディア (Recre-Actionネットワーク、Dateline Parks and Recreation、Friends of Parks and Recreation など) によって、一般市民に対する、公園・レクリエーションの必要性を啓発している。

3) 専門指導者の能力開発

年次会議、大学課程認定プログラム、専門指導者認定プログラム、生涯教育認定プログラムなどを通じて、指導者の資質向上と能力開発を行っている。

4) 知識の蓄積

インターネット、国際協力、図書館の整備、出版活

動などによって、資料・情報の収集・蓄積、あるいは情報の開示を行っている。

以上のような活動を支える財政については、図1に示すとおりである。<sup>13)</sup>

全体収入は、約870万ドルで、支出は、約800万ドルとなっている(1996年度)。その内訳をみると、収入面では、会費収入が僅か15%に過ぎないが、年次大会や指導者養成、出版・広告などが、67%の収入にも達する。これに対して支出面では、会員サービスが23%を占めている。徴収会費以上の会員サービスがなされて

いるということである。また、指導者養成にしても、収入(22%)を上回る、費用(31%)をかけている。

### 5. 年次 kongress について

NRPAの年次 kongress の正式名称は「NRPA Congress for Recreation and Parks-Education and Training Conference」となっている。すなわち、この kongress の内容は、教育とトレーニングを目的とした会議といえる。

1966年、第1回の kongress から、毎年一回の割合で開催され、1997年で32回を数え、その開催日程、場所、テーマについては、表1に示すとおりである。

第1回の kongress は、ワシントンDCのヒルトン・ホテルで、1966年10月9日から13日まで開催され、日本からも代表が参加している。渡辺福太郎を団長に、佐藤吾吾、今井武夫のほか、当時滞米中の江橋慎四郎、木庭修一、池田勝の諸氏が参加した。<sup>15)</sup>

会議日程の大枠は、ここ数年ほとんど変わっていない。その概略は、次ページ表2に示すとおりである。

すなわち、大別すると、会議前の講習・研修会、見学会、全体会議(開会式・閉会式を含む)、教育セッション、研究シンポジウム、展示会、全体懇親行事、

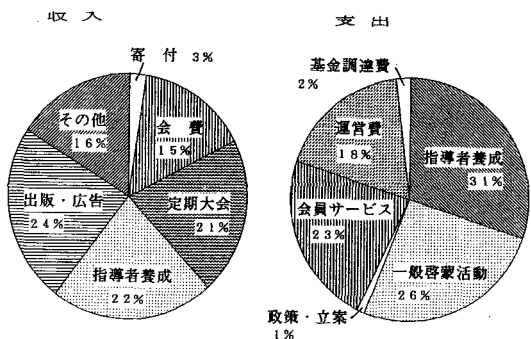


図1 NRPA収支状況

表1 kongressの年次開催場所およびテーマ

回	年	期間	場所	テーマ
1	1966	10. 9-10. 13	Washington, D. C.	
2	1967	11. 3-11- 7	Miami Beach, FL	
3	1968	10. 13-10. 17	Seattle, WA	
4	1969	9. 14- 9-18	Chicago, IL	
5	1970	9. 27-10. 1	Philadelphia, PA	NRPA in the 70's
6	1971	10. 18-10. 23	Houston, TX	Our Resources: Human, Natural, Fiscal
7	1972	10. 1-10. 6	Anaheim, CA	Programs that work: Practical Guide to Successful Public Policy for Parks and Recreation
8	1973	9. 24-10. 4	Washington, D. C.	
9	1974	10. 20-10. 25	Denver, CO	
10	1975	10. 19-10. 23	Dallas, TX	Life-Style '75: Nat'l Iss's-Decision in Dallas
11	1976	10. 17-10. 21	Boston, MA	Past Sight- Future Insight
12	1977	10. 2-10. 6	Las Vegas, NV	Leisure: Choices We Make
13	1978	10. 13-10. 19	Miami Beach, FL	In Search of Balance: Impact and Response
14	1979	10. 28-11. 1	New Orleans, LA	Leisure in the 80's: Choices and Change
15	1980	10. 19-10. 23	Phoenix, AZ	Life, Be in it.
16	1981	10. 25-10. 29	Minneapolis, MN	Life, Be in it: Focus on the Leisure
17	1982	10. 24-10. 27	Louisville, KY	Life, Be in it: Leisure Relates to All
18	1983	10. 2-10. 5	Kansas City, MO	Life, Be in it: Leisure in Transition
19	1984	10. 25-10. 29	Orlando, FL	A Challenging and Optimistic Future
20	1985	10. 25-10. 28	Dallas, TX	Leisure- The Essence of Living
21	1986	10. 17-10. 20	Anaheim, CA	Where do we go from Here?
22	1987	9. 17- 9. 21	New Orleans, LA	Life, Leisure and all that Jazz!
23	1988	10. 5-10. 10	Indianapolis, IN	Leisure on the Right Track
24	1989	10. 19-10. 23	San Antonio, TX	Leisure Legends and Landmarks
25	1990	10. 11-10. 15	Phoenix, AZ	Leisure in the 90's
26	1991	10. 17-10. 21	Baltimore, MD	Gateways and Greenways in an Urban Environment
27	1992	10. 15-10. 19	Cincinnati, OH	Relieve the Past- Reach for the Future
28	1993	10. 20-10. 24	San Jose, CA	Celebrating Community- Embracing Change
29	1994	10. 12-10. 15	Minneapolis, MN	People and Parks- Focus on Quality
30	1995	10. 5-10. 8	San Antonio, TX	Culture and Community: Exploring our Missions
31	1996	10. 23-10. 27	Kansas City, MO	The Future- Yours to Create
32	1997	10. 29-11. 2	Salt Lake City, UT	Pioneering- New Horizons
33	1998	9. 23- 9. 27	Miami Beach, FL	See the Dream- Share the Vision
34	1999	10. 20-10. 24	Nashvil, TN	
35	2000	10. 11-10. 15	Phoenix, AZ	
36	2001		未定	
37	2002		未定	
38	2003		未定	
39	2004		未定	
40	2005	10. 19-10. 23	San Antonio, TX	
41	2006	10. 25-10. 29	St. Louis, MO	

表2 全米レクリエーション・公園 コンgress日程表 (1997)

開会前各種講習会		コンgress				
10月27日(月)	10月28日(火)	10月29日(水)	10月30日(木)	10月31日(金)	11月1日(土)	11月2日(日)
8:30~17:00 各種講習 (NRPAレガット 安全検査士資格 講習)	8:30~12:00 特別セミナー  8:30~17:00 各種講習・試験  8:00~12:00 ゴルトナット	7:30~9:00 NRPA表彰祝宴会  7:30~12:00 現地見学ツアー  8:00~12:00 特別セミナー-各種講習  8:30~15:00 政策・プログラム ワークショップ  13:00~16:15 教育セッション-研究シ ンポジウム  16:30~18:00 全体総会セッション 基調講演  18:00~20:00 現地主催イベント 19:00~22:00 NRPA会長レガット 20:00~22:00 研究シ ンポジ ウム 懇親会  ゲスト・家族向けツアー	8:00~16:00 現地見学ツアー  8:00~15:15 教育セッション 研究シ ンポジ ウム  12:00~13:45 研究シ ンポジ ウム ホブ ンフォー ム  12:00~14:00 各ブ ランチ 懇談会  17:00~18:30 各種レ ガット 懇談会  18:00~21:00 展示会 閉会レ ガット セッション	7:00~9:00 各ブ ランチ 懇談会  8:30~15:15 教育セッション 研究シ ンポジ ウム  8:30~11:45 総論 教室  9:30~15:00 展示会 閉会レ ガット セッション  11:30~13:00 研究シ ンポジ ウム ホブ ンフォー ム  12:00~14:00 健康 フォー ム  19:00~22:00 NRPA 主催 イベント  19:00~22:00 各ブ ランチ 夕宴会	8:00~10:00 研究シ ンポジ ウム  8:30~11:45 教育セッション 研究シ ンポジ ウム  11:30~15:00 展示会 閉会レ ガット セッション  15:15~16:45 閉会 全体セ ッション 基調 講演  17:00~18:00 各種 レガ ット  18:00~ NRPA 総会 全体懇 親会 同窓会	7:00~10:00 会議 後パ ート  11:00~17:00 NRPA 総会 委員会  19:00~22:00 NRPA 総会 委員会 夕宴会

各ブランチの委員会・懇親会、同窓会、会議後の行事で構成されている。そのほか、ゲストや同行家族に対する、さまざまなツアーが毎日行われている。

ここでは、教育セッション、研究シンポジウムおよび展示会について紹介したい。

1) 教育セッション

教育セッションは、250ないし300のセッションが設けられている。最近では各テーマを総括して、マネジメント、自然資源、施設管理・サービス、セラピューティック・レクリエーションの4部門に分類されている。これらが並行して実施されるので、参加者は、自分の興味と関心に従って出席する。ほとんどのテーマは、生涯教育の単位(CEU)(注3)として認められる。

2) 研究シンポジウム

研究シンポジウムは、毎年100程度の演題が提出されている。1997年度は、1996年度までの分類とは、多少異なっている。すなわち、次の14分類となった。

少数民族・社会的疎外グループ・女性・高齢者部門、レジャーと障害者部門、レジャー測定部門、レジャーと倫理・価値部門、レジャーと健康部門、価値観とレジャー部門、レジャーの意味とその位置づけ部門、レジャーと青少年部門、レジャー・マーケティング部門、レジャーとコミュニケーション部門、レジャーと不満足部門、レジャーと大自然(wilderness)部門、カリキュラム部門、および観光部門である。それにボス

ター・セッションが加わった。発表は、部門毎に並行して行われ、3時間15分の間に7ないし8題発表されるので、1題あたり約20分ということになる。そのほかに、ラウンドテーブルディスカッションも行われている。

3) 展示会

開催地のコンベンション・センターを会場に使用していることもあり、展示会もその一角の展示会場で開催される。参加企業も、年毎に増加する傾向にあり、1997年度は参加企業450社、1,000ブースを越えている。

内容は、公園・レクリエーションに関わるもので、公園器具、遊園器具、各種メンテナンス器具、スポーツ用品、ソフトウェア、野外レクリエーション用品、出版物、レポート・テーマパーク関係、ウェア類、ゲーム機器など、多種多様である。最新の情報を得る場所として、格好の機会である。また公園・レクリエーション専門課程をもつ大学の展示ブースなども特色がある。

なお、外国からの参加者に対しては、レセプションや特別ツアーが用意されている。NRPAは、日本、オーストラリア、カナダ、イギリス、ニュージーランドと、交換協定(注4)を結んでおり、毎年上記の国々から1~3名の代表が、コンgressに参加している。またNRPA理事会に設けられている国際委員会は、会期中に委員会を招集し、各国の代表も同席して、国際協力に関する実績報告あるいは審議が行われている。

## 6. まとめ

以上、NRPAの沿革と現状およびNRPAコンGRESの概要を概観してきたが、それらをまとめると次のようになる。

1) 19世紀後半から20世紀にかけて発展した公園・レクリエーション運動は、社会のニーズを十分受け止め、公園とレクリエーションという領域や目的の違いを乗り越え、協力して、現在のNRPAとなった。それによって、市民レクリエーションが生まれ、行政システムにおける地位を築き、さらに社会問題に対するレクリエーションの価値向上に貢献してきた。それによって、専門職として社会的に認知された。振り返って日本の現状をみると、社会状況の違いはあるにせよ、NRPAがたどった経緯を参考することによって、日本におけるレクリエーション運動の将来に対して、大きな展望を得ることができる。

2) NRPAの全体収入は、年間約10億5,000万円（1ドル 120円として）である。全国組織としては、それほど大きな額ではない。しかしその収入源は、出版・広告・年次コンGRESで、45%を占めている。それに対して会費徴収は、僅か15%に過ぎない。支出では会員サービスが23%と、会費収入をはるかに上回っている。また指導者養成関連事業についても、22%の収入に対して、事業支出は31%と、これも上回っている。

このような状況を見ると、NRPA自体は、事務管理費を極力おさえながら、会員へのサービスと社会に対してのアピールに、資金を重点的に配分していることが分かる。

3) NRPAコンGRESは、年1回の総合的レジャー・レクリエーション・公園関係者の研修会議と位置付けることができる。そこで繰り広げられるプログラムは、研修・研究・会議のみならず、交流・懇親・情報交換の場でもある。また企業とのタイアップによって、一大トレードショーの場にもなっている。したがって、参加者は、所属するブランチの人たちとの交流はもちろん、実践家と研究者、公園関係者とレクリエーション関係者あるいは専攻学生(注5)が一堂に会して、個々のレベルアップを図りながら、意見・情報交換を行うことができる機会となっている。今後の日本においても、こうした機会が開かれることが多いに期待される。

## 注

- 1) ニュースレターには、江橋が1988年、1990年、1991年、1992年、1993年、1994年および1996年の年次コンGRESについて報告されている。
- 2) 筆者らのコンGRES参加は、1978年に始まり、1984年、1986年、1990年および1992年から1997年まで、筆者のいずれかが参加してきた。
- 3) CEUは、Continuing Education Unitsの略であり、NRPAでは、コンGRESにおける教育分科会出席やその他のNRPA主催の研修会出席などによって、資格更新に必要な単位が得られる。すなわち、現在のNRPAでは、4段階の資格（CLP、PLP、CLA、RLP）があり、RLPを除く資格については、2年の更新時期までに最低CEU 2単位（約20回の教育分科会出席に相当する）の修得が必要となる。
- 4) 交換協定は、正式にはProtocols on International Professional, Technical and Citizen Exchange in Parks and Recreationという協定である。NRPAは、この協定を（財）日本レクリエーション協会と、1992年に締結した。
- 5) 会場では、就職相談（Job Mart）が開かれ、学生へ就職情報を提供している。

## 参考・引用文献

- 1) 江橋慎四郎：外国のレクリエーションの現状、月刊レクリエーション、64号、60-63、1996
- 2) 江橋慎四郎：報告・全米レクリエーション・公園大会94、月刊レクリエーション、422号、42-43、1994
- 3) 江橋慎四郎：報告・全米レクリエーション・公園大会95、月刊レクリエーション、435号、28、1995
- 4) 片岡暁夫：レクリエーション運動に影響する要因について、第3回研究大会発表、1967
- 5) 木村博人：レクリエーション運動の展開に関する一考察～市民の意識変化に対応した実践例から～、第21回学会大会発表、1991
- 6) 小森谷大式：報告・全米レクリエーション・公園大会93、月刊レクリエーション、407号、30-31、1994
- 7) Kraus, Richard : Recreation Today, 414-415, Appleton-Century-Crofts, 1996
- 8) 丸山 正：市町村レク協会における生涯学習事業の可能性を探る、第25回学会大会発表、1995

- 9) 三本勲夫：地域レクリエーション協会による長期継続型指導者養成機関の運動に関する考察，第15回学会大会発表，1985
- 10) 宮下桂治：レクリエーション運動の展開に関する一考察～個に視点をあてたプログラムの試み～，第21回学会大会発表，1991
- 11) NRA：Report on ARS-NRA Relationships Study, Recreation, 439-440, Nov., 1962
- 12) NRPA：NRPA 1965, 1990, NRPA Congress Material, 9, 1990
- 13) NRPA：NRPA Income and Expenditure Statement, 1997 Annual Report, 15, 1997
- 14) NRPA：NRPA Mission Statement, NRPA VISION 2000-A Strategic Plan for the Future, Parks & Recreation, 47, April 1995
- 15) 日本レクリエーション協会：日レク協会ニュース月刊レクリエーション，64，74号，1966
- 16) 小田原一記：報告・全米レクリエーション・公園会議96，レクリエーション，21，449号，1996
- 17) 坂口正治：厚生運動の一考察～とくに社会情勢との関わりに於いて～，第8回学会大会発表，1978
- 18) 沢村 博：日本厚生協会設立までの経緯，第16回学会大会発表，1986
- 19) Sessoms, H. Douglas et.al: Leisure Services, 312-318, Prentice-Hall, Inc., 1975
- 20) 鈴木秀雄：21世紀を展望したレジャー・レクリエーション“運動”の課題と視点～余暇能力（Leisure-ability）の開発と余暇化（Leisure-lization）の実現を中心に～，第26回学会大会発表，1996
- 21) 谷戸一雅・橋本和秀・高橋和敏：日本厚生協会の活動に関する一考察，第23回学会大会発表，1993